

第4章 市の対応 《総社流》（発災～復旧・復興に向けて）

総社市長 片岡 聡一

平成30年7月6日

この日は、総社市にとって忘れられない日となった。

7月6日午前9時45分、前日からの降雨により災害対策本部を設置。すぐさま災害のおそれがある地区に避難所を開設した。私は、その時ある深刻な胸騒ぎを感じた。その数時間後にこの予感は的中する。

午後9時、市内を流れる高梁川の水位が避難判断水位の10.3mを超え、一抹の不安が頭をよぎる。

「市長、高梁川の水位が11mを超えました！」職員からの報告に、「高梁川決壊」という文字が頭をよぎった。午後9時30分、避難指示を発令。

水位は急激に上昇し、午後10時すぎ、12mを超えたとき決壊を覚悟した。千人いや二千人の命が奪われると腹をくくる。午後10時30分、職員から反対の声が上がる中、ひとり



災害対策本部会議（7月6日）

りでも多くの命を救うために、各地区の地域づくり協議会長を災害対策本部へ招集。「早く集めろっ！」怒号の指示から30分後、血相を変えた会長が続々とやってきた。「高梁川は1時間後に決壊する。これから全戸をまわり避難するよう声をかけてほしい」と依頼をするとともに、私も自身のツイッターでも「逃げてくれ。」と発信し続けた。ツイートを見て、ひとりでも動いてくれたらその人の命は救える、という必死の呼びかけだった。結局、ごくごく短い時間で、7,291人が避難。総社の底力を垣間見た瞬間だった。

午後11時35分、下原地区にあるアルミ工場で水蒸気爆発が発生した。爆風により115世帯が全壊と聞く。「二次爆発のおそれがある。すぐ逃げろ。」と指示し、急きょ避難用のバスを送り出す。瞬時の判断が事態を左右する切迫した状況だった。

7月7日午前0時すぎ、高梁川の水位がついに13mを超えた。高梁川が越水し、川に人が流された、消防職員3人を含む20人が濁流に飲み込まれた。市内各地区で浸水しているなど、次から次へ被害情報が災害対策本部へ飛び込んでくる。どの

情報も危機的なものだった。

情報が錯綜する— まさにそのとおりだった。

私は、脇目もふらず、被災地の救出に尽力した。

「有事の際は、法律・条例を破れ」

「決断は10秒以内で、責任は自分がとる」

「公平・平等の原則では誰ひとり助けられない」

私が自らに課した3つの掟である。被災者のためになるかならないか、善か悪か、もっともシンプルなこの2つを判断基準とし、発災から、職員とともに全精力をかけてこの掟を実行に移していった。判断基準を絞る勇気を、リーダーは持たなければならないと思う。

「逃げろ、逃げろ」と呼びかけていた時に、1通のダイレクトメッセージが届く。

「市長、私たち高校生でも何かできることがありますか？」

「ある。もちろんある。総社市役所に来てほしい。」

そして、やりとりもそぞろに、行方不明者の安否確認に追われた。

「市長、高梁川堤内の竹やぶに6人生存。」「7人が岩肌にしがみついており、生存確認できました。」緊迫した瞬間だった。しかし、私が作原に出動させた消防隊3人を含む、あと4人の安否は分からない。手をこまねている場合ではない、なんとかしなければ。

消防隊は、高梁川にかかる橋げたから消防用ホースを3～4m間隔で垂らし、ホースにつかまれ！という作戦を即実行させた。サーチライトで濁流を照らしながらの必死の救出作戦である

「いたぞっ。」ちょっとした波のはざまから見え隠れする人。「捕まれ！」と叫ぶ声。無情にもつかみ損ね、そのまま流されてしまった。救出は困難を極めた。

何がなんでも助けるという想いが届いたのだろうか、2人の消防士を発見。しかし、その2人はこともあろうに同時に1本のホースにつかまり、互いに譲り合い、再び濁流へと姿を消した。何本目かの橋げたで2人の消防士は無事救出されたものの、残る1人の安否は確認できなかった。

7月7日 東の空が白み始めた。重い空気に包まれた災害対策本部に消防長の声が響き渡る。「残る消防士を発見、無事を確認しました。」重苦しい会議室が一変。職員からあちらこちらで拍手と歓喜の声があがった。

手に汗握る生存者の確認、しかし4名の尊い命を奪われるという大惨事になった。ただただ心からご冥福をお祈り申し上げるばかりである。

そんな中、ふと災害対策本部の外に目をやると、人・人・人……。千人もの群衆の姿があった。暴動か抗議集団かと息を呑む。しかし、よく見ると、あの私のツイッターで集まった高校生たちだった。

「市長、僕らにも手伝わせてください！」「何かやらせてください。」「現場に行かせてください。」……。

「よし、分かった！」

バスをチャーターして現場へ。高校生たちの服装は半ズボン、Tシャツそしてスニーカーと決して泥かきができる服装ではなかった。しかし、やるしかない！と意を決して災害現場に入った。殺伐とした状況の中、高校生たちは腰の高さまである泥を必死で運び、途方に暮れている住民と共に家具や畳を運び出した。来る日も来る日も多くの高校生ボランティアが現場で活動してくれた。

「どうしてくれるんだ！」という被災地からの怒りが「ありがとう！」という言葉に変わっていったのは、まさしく中高校生の献身的な涙ぐましい努力によるものだった。そして、支援の輪は、大学生などにも広がり、延べ1万5千人に及ぶボランティアの方が助けに来てくれた。

また、総社市は全国的にも稀な「大規模災害被災地支援条例」を制定し、全国多くの市に災害支援を派遣してきた。初めて被災地になって驚いたこと、それは、これまで支援に行った土地から大挙して応援に来てくださったことだ。私はこのことに感謝のあまり涙した。

私は、今回の災害を記憶にとどめ、そして後世に語り継いでいくべきだと思っている。被災で経験したことを教訓に、災害に負けない強いまちをつくり、全ての市民が幸せになれる復興都市をめざしていく。



◎ 災害対策本部の対応（7月6日 応急対応 避難情報等）

情報発信、 災害対策 本部	発令 時刻	対象地区	日羽 水位 (m)	ダム 放流量 (t/s)	累積雨量 (mm)【時間 雨量】	伝達手段
本部設置	9:45					
避難準備・ 高齢者等 避難開始	10:00	下林, 赤浜, 秦, 宿, 岡谷, 昭和, 池田 (土砂災害危険箇所)	6.46	682	106【3】	TV, FM
避難勧告	13:00	昭和・池田・秦(土砂 災害危険箇所：山際)	6.5	672	126【9】	TV, FM, ｽﾏﾙﾄﾞ, 広報車
	19:30	清音軽部(川沿4軒)	8.95	2,373	147【14】	広報車, 個別面会
	20:30	日羽(国道～駅冠水)	10.13	2,753	177【9】	TV, ｽﾏﾙﾄﾞ
	21:30	全域	11.2	3,175	202【25】	TV, FM, ｽﾏﾙﾄﾞ, 緊急速報メール
全職員招集	21:30					
避難指示 (緊急)	21:30	宍粟, 日羽, 下倉草田 (浸水, 冠水) (無堤防地区等)	11.2	3,175	202【25】	TV, FM
	22:15	全域 【命を守る行動として強く訴え】	11.62	3,406	213【28】	TV, FM, ｽﾏﾙﾄﾞ, 緊急速報メール, 広報車
コミュニティ地域づくり協議会代表者緊急招集	22:30	全17地区代表者 (地区全員へ避難指示伝達を強く依頼) ・電話 ・10地区代表者参集	12.04	3,585	219【17】	招集, 電話
下原地区 避難支援	23:35頃	アルミ工場爆発 →二次爆発の危険性あり, 市から避難用の車手配 ⇒7月7日2:30 大半が避難終了				下原地区 (電話：直接) 約110世帯 350人

1 災害対策本部

○設置期間：7月6日（9：45）～8月31日（23：59）

（9月1日～復興対策本部）

○参画者（災害対策本部員以外）

- ・社会福祉協議会（常時：本部員同様）
- ・応援自治体(対口支援他)（常時：本部員同様）
- ・総社市議会議長（7月17日～9月2日）
- ・AMDA（7月7日～8月15日）
- ・総社警察署（随時）
- ・吉備医師会（随時）
- ・高校生ボランティア（随時）

○開催実績

期 間	間隔（原則）	実績（回）
7月6日～7月11日	4回/日	30
7月12日～7月19日	3回/日	22
7月20日～8月16日	2回/日	56
8月17日～9月30日	1回/日	39
10月1日～3月31日	2回/週	36

合計 183回

【評価】

- ・社会福祉協議会や応援自治体、市議会議長、AMDA、総社警察署などの関係者が本部会議に参画することにより、円滑に情報共有・意思決定を行えた。
- ・概ね適切な時期に避難準備、避難勧告、避難指示を発令することができた。ただし、今後夜間に強い雨が予想される場合は、早期に発令を行うとともに、夜間に避難情報を発令する場合は、十分な安全確認を行った上で行う必要がある。また、迫りくる危険を、更にわかりやすく地区を限定し伝えることも重要である。
- ・サイレンなどの活用による情報発信、更に、情報を受け取る地域での伝達体制の確立をしていく必要がある。
- ・情報共有体制が不十分（災害対策本部の意向が十分末端まで伝わらず、逆に現場の状況が本部に伝わらない）、本部連絡員の常駐、現地確認体制の構築、より機能的な本部班編成の見直しなどの課題への対応が必要である。

2 市議会の対応

- 物資輸送(避難所やボランティア活動拠点への、パン、弁当、飲料水、氷等)、物資の搬入、搬出、仕分け(フリーマーケット用)
- 被災地区選出議員は、被災者のニーズ把握やボランティアなどの被災地支援の取りまとめを実施
- 議長が災害対策本部に出席し、被害状況や市の対応状況などについて随時議員に情報共有

【評価】

- ・多くの議員の有志による活動により、被災者やボランティアの熱中症を防止することができた。災害時における執行部と議会との役割分担や協力体制については、今後、総社市議会災害対応要領を策定して対応にあたる。

3 現地出張所の開設等

- 災害対策本部下原・昭和出張所の開設
期間：7月13日～11月30日
体制：3人職員常駐
業務：現地ニーズの把握・対応、各種支援制度説明、申請受付・交付等



昭和出張所





下原
出張所

○下原地区の夜間巡回

目的：浸水被害及び爆風被害により住民のほとんどが避難所生活をしている
下原地区の夜間安全確保のため

期間：18日間（7月8日～7月26日）

時間：20：00～4：00（4時間ずつ2交代制）

体制：（市職員）164人（市議会議員）3人

○下原地区内外の交通誘導及びバス誘導

目的：下原地区内の狭隘な道路における交通安全を確保するため

期間：11日間（7月11日～7月23日）

時間：7：00～18：00

体制：警備員53人

【評価】

- 現地出張所の開設により、市役所と地元住民との顔の見える関係を構築しコミュニケーションを図ることができた。これにより、被災状況や現地ニーズの正確な把握、支援制度の被災者への迅速な説明を実施し、丁寧に災害対応業務を進めることができた。

4 個別課題に対応する体制の整備（「特設チーム」の設置）

- ア. 見舞金・支援金
- イ. 住まいの支援
- ウ. 農家及び中小企業支援
- エ. 家屋解体

※必要に応じて、各チーム職員が現地出張所でも対応

ア. 義援金等支給（第①回～第⑤回）

○義援金

①②受付時に同時支給

名 称	金 額（円）/世帯	受付開始日 （支給開始日）	件数 （うち事業所）
①災害支援金	50,000	7月21日	1,035(58)
②災害見舞金	全壊 1,000,000	7月25日 (7月30日)	564(37)
	大規模半壊500,000		
	半壊 200,000		
③生活スタート資金	100,000	9月5日	562(36)
④災害義援金	500,000	12月10日 (12月25日)	560(36)
⑤床下浸水等災害 義援金	100,000	3月1日 (3月19日)	241(9)

※ また、義援金とは別に上記④の支給の際には、合わせてクリスマスケーキを届ける支援も実施。

- 被災者生活支援金 158件（申請件数）
- 災害弔慰金 7件（申請件数）
- 災害援護資金 2件（申請件数）

見舞金の支給

「最速で!!!」

（発災後2週間で支給）



イ. 住まいの支援

○ 応急仮設住宅の建設（福島県から無償譲渡（いわき市仮設住宅））

福島県で活躍した木造の仮設住宅を活用，木のぬくもりが感じられる落ち着いた生活環境を整備。敷地内には集会所も設置した。

	着工	竣工	入居	戸数（集会所）
西仮設	7月25日	9月15日	9月15日	22戸(1戸※)
昭和仮設	8月6日	10月13日	10月14日	24戸(1戸)

※銘建工業(株)から寄贈



○ 仮設住宅等入居状況（最多入居世帯時 12月17日）

種別	世帯数	入居者数	種別	世帯数	入居者数
西仮設	22	50	教職員住宅	3	8
昭和仮設	23	47	みなし仮設	38	86
上原仮設	27	64	家賃助成(※)	20	44
県営住宅	1	3	計	134	302

(※) 仮設住宅や応急修理を利用していない方を対象に，月額5万円を上限として市から家賃補助

○ 住宅応急修理（上限584,000円補助） 申請154件 完了148件

○ おひつコミュニティハウス開設（草田地区へ 真庭市から貸与10/19）



ウ. 農家及び中小企業支援

(1) 農家支援

○補助問合せ相談会（要望受付）

(1)8月29日～9月12日 対象：昭和，神在，秦，全地区（4会場）

(2)9月28日～10月17日 対象：昭和，下原，全地区（3会場）

○支援説明会（補助金手続き） 12月3日

○農機具・施設復旧補助 申請状況 (金額：千円)

要望	農家数	農機具・施設数	事業費	補助金※	自己負担額
第1次	140	802	544,100	474,580	69,520
第2次	134	398	266,460	233,700	32,770
合計	274	1,200	810,560	708,270	102,290

※補助金 1/2 国庫，1/5 県，1/5 市

・主な農機具・施設の内訳

農機具・施設	台数
トラクター	110
田植機	60
コンバイン	70
保冷库	43
管理機	160
草刈機	128
加温機	26
農機具倉庫再建・修理	26
ビニルハウス再建・修理	6

・地区別農機具等再整備数

地区	台数
総社	1
阿曾	5
池田	23
秦	112
神在	639
日美	148
下倉	164
水内	14
富山	2
山手	2
清音	90
計	1,200

○稲刈り取り支援

豪雨災害により，農機具が水没等により使用できなくなった農家の方々に代わって，稲刈りを行なった。



- 対象地区：草田，下原（27戸）
- 面積：13.6ha
- 期間：9月28日～11月14日

(2) 中小企業支援

○説明会（被災事業者支援制度）

- 9月3日 昭和会場（消防署昭和出張所）
- 9月4日 山手会場（総社吉備路商工会本部）
- 9月10日 総社会場（総社商工会議所）

○補助金申請（採択）状況

• 国県補助金

補助金名	事業所，グループ数	内 訳
中小企業等グループ施設等復旧整備補助金	3グループ	①総社商工会議所：32社 ②総社吉備路商工会：18社 ③産業振興事業団：3社 (③の全8社中総社市関連)
小規模事業者「持続化補助金」	47社	総社商工会議所：33社 総社吉備路商工会：14社

• 市補助金

補助金名	事業所数	金額（円）
被災中小企業融資支援補助金	25社	1,761,922
被災中小企業雇用維持補助金	6社	1,108,429
被災中小企業移転支援補助金	3社	2,960,000

工. 家屋解体

半壊以上の被災家屋等を市が解体撤去する（災害廃棄物として除去）

- 1) 相談窓口開設（8月6日）
- 2) 受付・発注等（世帯数）

公費解体（市が解体・撤去を行う）

- ・受付：120（平成30年9月13日～平成31年3月31日）
- ・発注：76 ・解体済：30

自費解体（被災者が自費で解体・撤去を行い，その費用を市から償還する）

- ・受付：43（平成30年9月13日～）
- ・償還：15

【評価】

- ・個別課題に対応する体制（特設チーム）に職員を重点的に配置し，応急復旧業務を集中的に管理・実行し，迅速な課題の解決につながられた。
- ・特設チームは指揮命令などの点において若干支障が生じたため，同様の課題が生じた場合の災害対策本部における担当部をあらかじめ定めておく必要がある。

5 災害廃棄物処理

①最寄りの仮置場の開設

場所：15箇所（昭和，下原，清音等）

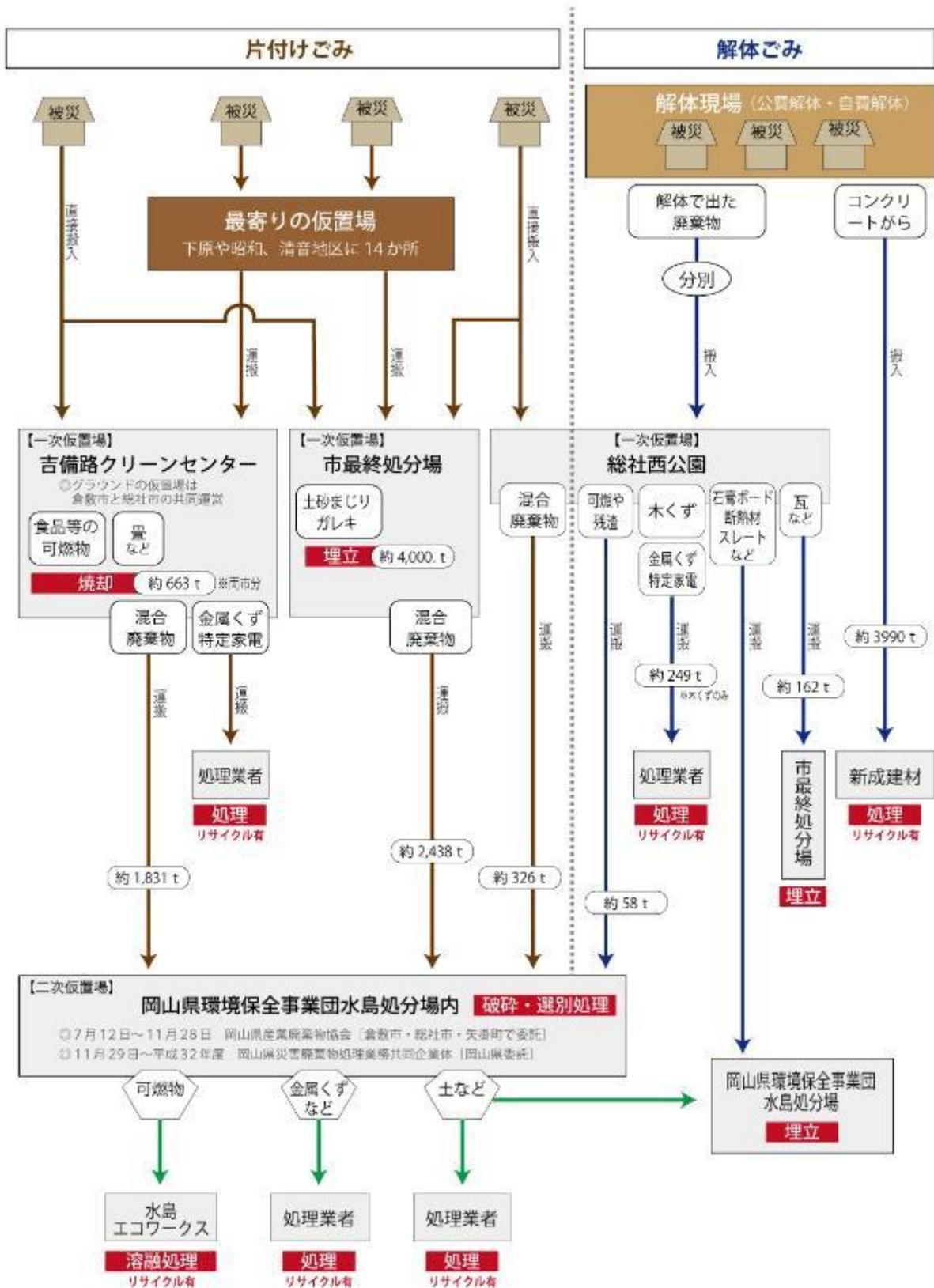
期間：7月8日～7月31日

内容：被災者が廃棄物搬入。7月末までに一次仮置場へ全て搬出し，閉鎖（総社西公園を除く）

②一次仮置場（焼却，埋立）の開設

	主な廃棄物	量（t）	処理
吉備路刈-地タ- (7月9日～)	食料品等可燃物，畳等 (倉敷市含)	約663	焼却
	混合廃棄物	約1,831	二次へ
総社市一般廃棄物最終 処分場(7月9日～)	土砂まじりガレキ	約4,000	埋立
	混合廃棄物	約2,438	二次へ
総社西公園(7月15日～ 26日,12月25日～)	解体ゴミ（瓦，木くず等）	約469	埋立等
	混合廃棄物	約326	二次へ

（解体業者処理 [コンクリートがら等]約3,990t，[特定家電]5,176台）
（倉敷市含）





③二次仮置場（破碎，選別処理）の開設
岡山県環境保全事業団 水島処分場内に設置

【評価】

- ・総社市建設業協同組合，吉備路清掃協同組合，ボランティア，応援自治体などの尽力により，街中の災害廃棄物はきわめて迅速に排除し，復旧を進められた。
- ・災害に備え，あらかじめ一次仮置場や二次仮置場の場所，運用方法などについて定めておく必要がある。

6 消毒

○消毒液等の配布

配布物：消毒液（オスバン），消石灰

期 間：7月13日～7月31日

場 所：市役所，昭和出張所，下原公会堂，清音出張所（環境課）

○消毒作業の実施

期 間：7月14日～7月27日

対象件数：1,431件

実施件数：1,181件（17地区（大字））

体 制：職員2人一組の5組編成

延べ職員数：190人（他自治体からの支援職員40人を含む）

7月14日～21日 昭和地区， 7月21日～22日 清音地区

7月23日～24日 下原地区， 7月25日～27日 不在宅の巡回

【評価】

- ・職員が消毒作業を実施することにより，消毒作業とあわせて被災状況の把握や被災者の方々とのコミュニケーションをとることができた。
- ・ただし，作業人員の確保，消毒作業の専門性などの観点から，専門業者や団体への委託も検討する必要がある。

7 フリーマーケットの開設

期間：7月11日～10月1日

場所：総社市役所南側車庫

人数：71,564人（真備町の被災者も多数来所）

参加ボランティア：5,223人（仕分け，配付）

内容：あらゆる支援物資を受け入れる。

被災者であれば誰でも自由に希望する支援物資の持ち帰りを可能に。
物資の仕分け作業には多くのボランティアの協力があった。



- ★いままでにない画期的な生活物資の支援
- ★市外の被災者も支援



【評価】

- ・「総社市流」災害対応の象徴的な取組として有用に機能した。ガレキ処理や家財搬出などのボランティアに参加できない、高齢の方々や子どもたちにも、ボランティアとして数多く参画いただいた。

8 罹災証明の発行

受付（7月10日～） 認定調査（7月12日～） 発行（7月25日～）

発行内訳：被害状況（建物被害）参照

【評価】

- ・罹災証明業務の経験者を派遣いただくなど、他の自治体からの応援職員の協力により、迅速に被害認定調査を実施することができた。
- ・浸水被害だけでなく爆風被害が生じたことにより、爆風被害の判定基準について国との協議に時間を要したため、爆風被害に関する罹災証明の発行については迅速な対応が難しかった。

9 災害復旧工事

公共土木・農林・下水道施設【市道、河川、農道、ため池、水路、林道等】

学区別一覧

学区	被害件数	工事済件数	未施工件数	進捗率
総社小学校	5	4	1	80%
総社中央小学校	10	8	2	80%
総社北小学校	9	9	0	100%
常盤小学校	4	4	0	100%
総社東小学校	15	15	0	100%
阿曾小学校	42	35	7	69%
池田小学校	55	47	8	73%
秦小学校	35	28	7	68%
神在小学校	30	26	4	79%
総社西小学校	114	88	26	71%
新本小学校	131	100	31	71%
昭和小学校	213	162	51	73%
維新小学校	87	73	14	69%
山手小学校	34	28	6	80%
清音小学校	32	29	3	85%
合計	816	656	160	80%

復旧費等

金額（千円）

復旧費	1,143,995	【市道・河川】359,885, 【農林】416,640 【その他】367,470
応急費	205,000	全施設
合計	1,348,995	

公共災害関連（補助決定額）

【公共土木施設】

区分	箇所数	路線人等	金額（千円）
市道	22	新本支線 3037 号道外	156,385
水路	1	庭木川	3,704
橋梁	1	山田 3028 道 2 号橋	28,807
合計	24		188,896

【農林施設】

区分	箇所数	路線人等	金額（千円）
農道	4	山田農道 4504 号道外	4,397
ため池	4	南谷池（下倉）外	11,845
頭首工	3	正田頭首工（原）外	11,697
農地	43	田, 畑	60,396
合計	54		88,335

【下水道施設】

区分	箇所数		金額（千円）
農業集落排水	2	清音黒田, 下原	38,394
下水処理施設	2	美袋処理場, マンホールポンプ	275,302
合計	4		313,696

【評価】

- ・発災後、業者とも連携を円滑に行い、応急対応を実施。土砂災害の影響で孤立集落をつくらないことと農業用水の確保を最重要解決点としての対応であった。この2点については、日頃の道路管理から推測することができたことで、発災直後に対応できた。
- ・通行止めの対応の遅れや道路復旧の遅延などは、被害箇所も多く、マンパワー不足により、道路の冠水箇所の把握に時間を要した。
- ・他自治体から中長期の応援職員の協力も得て補助事業を早期に採択し、年度内に全ての工事発注を完了できた。

10 その他

○子供の心のケア

期間：8月31日～9月7日

内容：被災小中学校を中心に巡回，支援，相談

体制：仙台市から専門職員を派遣

○学用品の供与

	学 校	人 数	教科書	文房具
小学校	5校	71人	317点	688点
中学校	5校(市外含む)	27人	111点	699点
高 校	17校	25人	135点	450点
合計	27校	123人	593点	1,837点

○入浴サービス利用者

30, 307人（サントピア岡山・総社，サンロード吉備路）

※お風呂バス運行

7月21日～10月16日

○生活状況把握と見守り・相談支援（復興支援センター）

対象

建設仮設	みなし仮設	在宅	家賃補助	その他	合計
410件	351件	629件	28件	110件	1,528件

・相談方法

訪問	電話	来所	その他
1,087件	242件	116件	83件

・相談内容

日常生活	住宅再建	健康医療	社会参加	不安
651件	484件	279件	210件	199件

11 復興推進室の設置（復興ビジョン・計画作成）（11月1日）

- ・市民アンケート 配布：2,500人（世帯主）（11月21日～12月3日）
回収：1,244 回収率：49.8%

・総社市復興ビジョン委員会

	開催日	主 な 議 題
第 1 回	11 月 1 日	説明・意見交換（総社市復興ビジョン・復興計画）
第 2 回	12 月 14 日	説明・意見交換（総社市復興ビジョン(素案)）
第 3 回	2 月 21 日	説明・意見交換（総社市復興計画(素案)）

・昭和・下原地区意見交換会

	開催日	地区	参加者	主 な 議 題
第 1 回	12 月 2 日	下原	34 人	報告事項 ・一級河川高梁川等の被害概要及び 復旧 ・市道等の災害復旧工事の予定 ・「総社市復興ビジョン」概要説明 (基本方針と策定スケジュール等) 意見交換
		昭和	50 人	
第 2 回	12 月 9 日	下原	31 人	
		昭和	54 人	

・下原・昭和地区復興委員会

	地区	開催日	主 な 議 題
第 1 回	下原	11 月 7 日	意見交換 (平成 30 年 7 月豪雨災害からの復興)
	昭和	11 月 9 日	
第 2 回	下原	12 月 11 日	説明・意見交換 (総社市復興ビジョン(素案))
	昭和	12 月 11 日	
第 3 回	下原	1 月 23 日	意見交換 (総社市復興計画策定に向けて)
	昭和	1 月 25 日	
第 4 回	下原	2 月 20 日	説明・意見交換 (総社市復興計画(素案))
	昭和	2 月 20 日	

・復興ビジョン完成（記者発表） 12 月 25 日

・復興計画完成（記者発表） 3 月 26 日

【評価】

- ・復興推進室（職員 5 人）が中心となり、アンケートの実施，地元や有識者との意見交換などを通じて，年内に復興ビジョン，年度内に復興計画を取りまとめることができた。
- ・引き続き被災地区との意見交換を継続しながら，復興計画に記載された各事業の進捗を管理する必要がある。

12 消防の対応

①消防本部

消防本部は、7月5日21時に消防司令本部を立ち上げ、来るべく災害の対応を協議した。翌7月6日、全職員を緊急招集し、鳴り止まぬ119番通報と相次ぐ災害に対応した。

家屋浸水により多数の地区で市民が孤立し、また同時に、高梁川の増水により複数の方が濁流に飲まれ、消防隊延べ123隊317人が救助出動した。その最中、アルミ工場爆発による複数棟の炎上火災が発生するとともに、数十人が負傷し、消防隊延べ7隊28人及び救急隊延べ15隊45人が出動する等、過去に例を見ない災害対応となった。

沈静後は、爆風被害による屋根の復旧作業等、被災地区での被災者ニーズに対応するため、消防ボランティアを立ち上げ、県内消防本部を始め、全国から延べ180人が駆けつけ、共に活動を行った。

◎119番通報件数 990件（7月6日～7月8日）

- ・月平均件数の約3か月分の通報が3日間に集中
- ・高梁川の水位が水防団待機水位を超えた6日19時頃から増加
- ・7日6時～17時（12時間）で1時間に約50件以上
- ・7日5時～21時にかけて携帯転送（真備町からの通報）が増加
- ・1時間の最大通報件数・・・71件（7日13時～14時）
- ・1日の最大通報件数・・・797件（7日）

◎出動件数 延べ157隊、429人の消防職員

救助出動 ※	31件	123隊	317人
水防出動	8件	9隊	32人
火災出動	1件	7隊	28人
油流出出動	1件	3隊	7人
救急出動	15件	15隊	45人
合計	56件	157隊	429人

◎その他の活動

- ・行方不明者捜索・・・546人（消防114人、消防団432人）
（7月7日～7月12日）
行方不明者は、7日に池田分団が2人、12日に総社分団が1人発見
- ・水没地区での安否確認・・・39人（消防17人、消防団22人）
美袋、日羽、作原、下原草田、清音軽部地区
- ・作原ホーム 入所者移送調整
移送人数 101人（入居者97人、ショートステイ4人）
川崎病院、介護施設車両で移送（1人を救急車で移送）

- 下原地区住民の移送
アルミ工場爆発の二次災害発生の恐れがあるため、下原地区住民19人を吉備路アリーナへ移送（消防マイクロバス）
- 朝日アルミ関連の火災調査・・・242人
（消防98人、警察110人、労働基準局16人、消防研究センター16人、消防庁2人）
- ボランティアの移送（バス）・・・消防76人
- 物資支援、ゴミ搬出、家屋の消毒作業・・・消防367人



清音軽部



下 倉

②消防団

消防団は、団本部及び全18分団が管轄地域を越える対応に当たった。出動期間は、7月5日から8月31日までの58日間、延べ2,191人が出動した。

活動内容は、初期対応として土砂災害及び浸水対応、避難誘導、広報を実施した。また、アルミ工場の爆発に伴う火災対応などを行った。

さらに、豪雨沈静後は炎天下の中、行方不明者の捜索（3人を発見）、住民の安否確認等を行うとともに、がれきの撤去、被災家屋からの家財の搬出、屋根修理等の活動を行った。

女性団員は、ボランティア対応の補助、フリーマーケットや支援物資の仕分け作業等を行った。

活動状況（活動別 延人数）

避難誘導	52	物資搬送仕分け等	140
土砂対応	44	ボランティア受付等	180
行方不明者搜索	432	ゴミ収集仕分け	500
安否確認	22	警戒等	832

活動状況（分団別 延人員）

団本部	中部方面隊		東部方面隊		西部方面隊		北部方面隊		南部方面隊	
	総社	181	三須	114	秦	115	日美	199	山手	103
	常盤	80	服部	59	神在	122	水内	96	清音1	40
	池田	122	阿曾	172	久代	128	下倉	156	清音2	37
					山田	104	富山	30		
					新本	86				
247	小計	383	小計	345	小計	555	小計	481	小計	180
合 計 2,191 人										

【評価】

- 発災前日に消防司令本部を立ち上げ、気象情報等の情報を共有し、今後の対策を協議するなど災害発生に備えた。発災直後には多数の119番通報により、助けを求める声が殺到した。全消防力を結集し救助活動を行ったが、全ての声に迅速に対応することが出来ない無力感を感じた。
- 消防職団員は連日連夜の活動となったため、ローテーションを組むなどして隊員の負担軽減を図ること、また、活動中の危険排除や熱中症予防等の安全管理を徹底する必要がある。
- 爆風被害を受けた下原地区では、家屋の雨漏り防止や壊れたシャッターの切断など、危険が伴う作業を他市消防のボランティアと協力し、消防業務の枠を超えた「消防ボランティア」という「総社流」の活動を実施した。
- 今回の災害を受けて、ドローンや救助用ボートなどの水難救助資機材を整備した。また、水害や地震といった各種災害に特化した研修を積極的に受講するなど、職員教育を充実させ、消防力の強化を図っていく。